

「隠退して半年」

2014年10月01日

隠退して生活は一変し、半年になる。在任中は追われるように多忙であったが、今は、時間がゆったり流れている。教会に奉仕することが使命と思い、私なりに励んできた。それから解放され、自分の好きなように過ごせることに申し訳なさを感じている。

私の机の前の「窓辺より」の風景は、引っ越してきた時、桜のつぼみが膨らみかけていた。満開に咲き誇り、散り、桜を堪能した。ケヤキともみじが新緑から深い緑に代わり、今は紅葉しつつある。色々な小鳥が飛んできて、楽しませてくれる。歩いて10分以内に公園が六つもある。公園を巡り歩く散歩は職を解かれた老人の特権であろうか。自然と触れ合うことによって、人は心が和むように造られているようだ。

教会は「横浜本郷台教会」に通っている。隠退牧師は行く教会がなくなると聞いていた。横浜本郷台教会は喜んで受け入れてくださり、落ち着いた教会生活を送っている。佐野匡牧師は聖書をよく学び、誠実な説教をしておられる。多くの人に聞いてもらいたい。今年、第二種教会として認められた。自立した教会に成長するように、心から祈っている。

テレビ映画を観る。こんなに多くの映画が放映されていることを知らなかった。騒がしく、恐ろしい映画が多いが、心に沁みる映画もある。ヒトラー暗殺を計画したシュタウフェンベルグ大佐をトム・クルーズが演じた「ワルキューレ」を興味深く観た。ただドイツ語でなく、英語であることに違和感を覚えた。またナチズムに反対するピラを配って抵抗した学生たちを描いた「白バラの祈り」に感銘を受けた。逮捕、尋問、死刑判決を受けるが、裁判官に向かって「今度は、あなた方がこの席（被告席）に座るのだ」と言い放つセリフに感動した。良心に従って、時代に抗う人々の勇氣は記憶されていく。

読書は、以前のように本が買えないので、横浜市の図書館を利用しているが、読みたい本はすぐには手に入らない。注文し数ヶ月待つ。しかし、遅読になったので、読む本が途切れることはない。読書は知らない世界への探訪であり、何より、心の糧になる。

「憲法9条を守る会、反原発の会」には最小限の出席であったが、今は諸々の集会、活動に積極的に参加している。新聞やテレビに報道されることは少ないが、地道に活動している人々が多いことに勇氣づけられる。主イエスの福音は「命を守り、平和を実現すること」である。教会はもっと大きな声をあげていくべきである。時間と体力の許す限り、運動に関わっていきたいと思っている。

発信できるホームページ「窓辺より」を開き、毎日書いている。聖書本文を読んでもらいたいので、その箇所を載せ、私の所感を書いている。また、触発された諸問題について、思いのままに書いている。隠退牧師の「信仰告白」のつもりである。

妻も聖書を読み、新しい発見を喜びながら書いている。パソコンを利用し、様々な絵や写真を挿入して、キリスト教文化の広がりを楽しんでいる。孫たちへの遺言にしたいそうである。「文筆活動(?)に忙しい」と笑いながら、刺激し合っている。

ホームページを管理してくださるY・H氏に心から感謝している。読んでくださる方は多くはないが、気軽に読んでくだされば、嬉しい限りである。読者の皆さん、友人、知人にパソコンの「お気に入り」に入れて、読んでくださるようにお勧めください。